



徳島大学の挑戦

人・地域をはぐくみ 未来をつくる

徳島大学創立70周年記念事業後援会 会長
香川 征

徳島大学は創立70周年を迎えるにあたり「人・地域をはぐくみ 未来をつくる—徳島大学70—」をキャッチコピーとして、創立100周年の未来へ向かい、地域・世界を繋ぐ循環型課題解決組織として、接続可能な世界づくりに貢献できる大学を目指しています。

日々めまぐるしく変化する世界情勢。徳島大学はその変化の中、常に進化を続け、地域の人材育成や課題解決に大きな役割を担ってきました。

この度、70周年記念事業後援会を組織して①70周年記念事業の実施 ②学内環境の整備・充実 ③100周年に向けた未来ビジョンづくりとその実現、という事業計画を策定しました。記念事業の基礎となる募金につきましては、関係各位の深いご理解と多大なるご支援により、過去最高のご寄付が得られました。これはひとえに、ご協力いただいた法人ならびに同窓生をはじめとする個人の方々のご厚意の賜物であり、記念事業後援会を代表して心からお礼と感謝を申し上げます。

2004（平成16）年に国立大学が法人化され、毎年運営費交付金が1.2%削減され、その影響が人件費

を削減しなければならないほど財政的に厳しい状況にあります。その削減額は法人化時と現在を比較すると31億7千万円となっています。さらに、人口減少・少子高齢化はいまや国難ともいわれています。そのような状況において、大学の役割も多様なものとなっています。

一時さかんにいわれた大学のグローバル化は、もう言葉として古いものになりつつあります。大学の起業をはじめ、自己収入の確保、地域創生として生涯学習の整備、さらにはAI・ビッグデータ管理などの教育や大学自身の対応、ひいては国立大学の連携・統合・再編等と一昔前とは大きく様変わりしてきています。

IT企業で、ドッグイヤーと呼ばれ、暦の上の1年間は、最近では6～7年間に相当するといわれています。まさしく時代の変遷がスピードをもって変化していています。その分、大学のスピードある改革・対応が要求されています。

大学を取り巻く環境は厳しい状況が続くと思いますが、今後、徳島大学が100周年に向け、地域・日本・世界へと羽ばたくことを心より期待しています。

常三島キャンパス



Tokushima University
70th Anniversary

2019 CAMPUS NOW

蔵本キャンパス



新蔵キャンパス

